

Q10： 外国語活動の指導形態にはどのようなものがありますか。

A10： 外国語活動は、指導計画の立案から実際の授業に至るまでHRT（学級担任）が主体となって進めることを基本とします。ALT（外国語指導助手）、JTE（日本人英語教師）や、地域人材講師などの協力を得ながら、TT（ティーム・ティーチング）を行うことも効果的です。ただその場合においてもイニシアチブをとるのは、児童の実態を一番把握している学級担任がよいでしょう。

それぞれの教師が、どの様に指導に当たることが望ましいかをまとめてみます。

1 HRT（学級担任）

英語は得意ではないけれど
授業の中心となってやるぞ！



(1) 担任が主体となって

HRTが作成したプランで、HRTが主体となって指導したい内容を進めていくことが大切です。本時のねらいに向かって授業をコントロールしましょう。

(2) 児童の実態を踏まえて

学級の実態を一番よく理解しているHRTは、児童の実態、その日の様子や状況に合わせて指導に当たります。例えば普段の授業で積極的に発言するのを苦手とする児童が相手の目を見て会話をしていたら、恥ずかしそうにやっていたとしても、その進歩を認めていくことが大切です。またねらいに沿って目指す姿を具現しようとしている児童の姿を認めていくことも大切にしたいものです。このような教師の具体的な認めが児童の自信となって次への意欲につながっていきます。

(3) 学習者のモデルとして

HRTは、学習者のモデルあるいはコミュニケーションを図ろうとする者のモデルの役割を果たします。児童の反応を引き出す糸口となることもありますし、英語に対して苦手意識のあるHRTでも、英語を使ってALTとコミュニケーションをしようとする姿は、児童にとって非常に励みとなり、児童の意欲を喚起することになるでしょう。

2 ALT（外国語指導助手）

自然な英語を
インプットします！



(1) 児童が自然に英語に慣れ親しむことができるように

ALTの発音を児童がたくさん聞くことは、自然に英語に慣れ親しむ上で重要なことです。しかし何でも児童に話せばよいというわけではなく、児童の様子を見ながら分かりやすい表現、簡単な表現を用いるとよいでしょう。

(2) 児童に英語を話す時のポイントとして

ALTの話す英語の中に児童が内容を理解できるようなヒントが隠されています。それは、実物であったり、写真や絵であったり、今までに聞いたことのある分かりやすい英語の表現であったりします。また、児童に、それらのヒントの中から話の内容を推測し

ながら理解する力を育てることも大切です。児童は、一生懸命に話を聞いて、一つでも多く単語を聞き取り、理解できた時に喜びを味わうことができるのです。

(3) いろいろな場面で自然に英語を

ALTには、本時のねらいに沿って児童に効果的に英語を話をしてもらうことが望まれます。単に本時に慣れ親しませたい英文を繰り返すだけでなく、その場面にあった内容を自然な英語で話すことで児童は効果的に聞くことに対して慣れていくでしょう。ALTの自然な英語を聞いた、児童にとっては目に見えない効果があるものです。

(4) 評価について

ALTは、児童の発音や強弱やイントネーションなどの音声面、多様な英語の表現等を評価する役割を担います。ALTに英語で認めてもらうことで、児童は大変自信をもつものです。

(5) 異文化に触れる体験として

ALTの英語を聞くこと、ALTの持ってきた教材・教具に触れること等の全てが、児童にとっては異文化に触れる貴重な体験となります。

3 JTE（日本人英語教師）・地域人材講師など

ALTとHRTの橋渡しをするわ！



(1) HRTの授業進行の補助として

HRTが効果的に授業を進めていくことができるように指導の補助をします。授業中にALTの英語を1つ1つ日本語に訳す必要はありません。JTEや地域人材講師が日本語に訳してしまうと、児童はALTの話を英語で理解しようとしなくなってしまうのです。JTEや地域人材講師はALTの英語をさらに分かりやすい英語に言い換えたり、絵を描いたり、ジェスチャーで示したりしながら、ALTとHRTや児童の間の橋渡しをすることが大切な役割です。また、ALTが授業に参加しない時には、ALTの代わりとしてその役割を果たすとよいでしょう。

(2) コミュニケーションの相手として

HRTや仲間とのコミュニケーション以外に、いろいろな人とコミュニケーションをしたり、一緒に活動をしたりすることは、児童の学習意欲を高めることにつながります。

また、TTで授業を行うことにより、多くの児童が教師やJTEやALTと実際に会話を行うことが可能になります。その時、JTEや地域人材講師が、本時のねらいに基づいて、一人一人の児童のよい姿や伸びを積極的に認めることを大切にしたいものです。教師や地域人材講師からの具体的な認めや励ましは、児童の自信や活動の意欲の向上につながります。